

文久四年二月十六日より文久四年二月十七日まで

P8311092 right

休所へ尋問す正■の由、面すべく思ひしに既に帰りし故、当所は古昔■・・■
に成し□に相見え家並みは軒も所々損壊せしとも町数許多ありて中には大店も見えり
第十一時過出立代官人馬差配役各所出役、

(五ノ戸泊)の水にて川を渉る如し、一同困苦せり、第一時過五ノ戸旅宿に着、旅宿樓を設け
勤番所

の振合昨宿の如く両役の出役も前宿の如し、旅亭の造築惣□広く且美というべし

前者代官□安兵衛安否尋問に来る、付添いの三人、例の通り尋問せり、○山嶺、□水
呉山脚下連真成 身是入中天自強 為客痴情

尽頭危険生松風吹落溪流裏併作満山清極欲問吾郷何処邊羊腸燕尾路回紫色陰
爽声

P8311092 left

十七日 子 晴雲暴風夕前微雪乍晴

朝四十五度(撰氏7.2度) 昼四十七度(撰氏8.3度)

朝第六字時出立、代官人馬差配役出役、伝法寺村小休、第九字時過藤島午休所

(藤島休)着、例の両役出役、右代官某休所へ尋問、第十時過出立、例の両役出役、大坂川船渡
し

渡船前後に川渡役某耆人も出役、渡船はただ一艘を以、人荷物をも往返運輸する故、手回し宜し
からず

三本木村小休三本木村新田と唱え、近頃近六万石程の新田を開墾し新たに村高を取立の趣
にて人家多半出来追々造営取懸り居る分も許多有し、何れも大舗ながら店一□を□せり、浄土

□野立、第三時七ノ戸旅宿へ着、例の両役出役、入口勤番所等の設此の如し当所は存外

(七ノ戸泊)町並宜敷旅亭は古着屋(呉服)□無し趣にて家作土蔵は経営向美麗壯観、従者を
間席

ともに、皆然り是迄の旅亭、此の右に出るものなし、本日の道程この日より
午後よりは多く平坦荒□の郊原也、尤暴風烈敷笠を飛ばし帽を落し駕も稍々傾

(内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。